

ナガホノナツノハナワラビ *Osmundopteris stricta* (Underw.) M.Nishida

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く直立し、年に 1 枚、高さ 30~70cm の葉を出す。共通柄は長さ 15~25cm で、太いものは直径 1cm くらいになる。栄養葉は無柄、葉身は広三角形、長さ 15~30cm、2~3 回羽状に深裂し、ナツノハナワラビより切れ込みが浅く、深緑色である。孢子葉は穂状で細長く、2 回羽状、羽片は短く、密につく。孢子はナツノハナワラビより遅く、7 月頃熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 87059, 2011-6-5）。西：5 稲武（芹沢 79312, 2004-8-4）、25 豊田北西部（村松正雄 87-146, 1987-10-4）。3 区画で確認されているが、稀である。

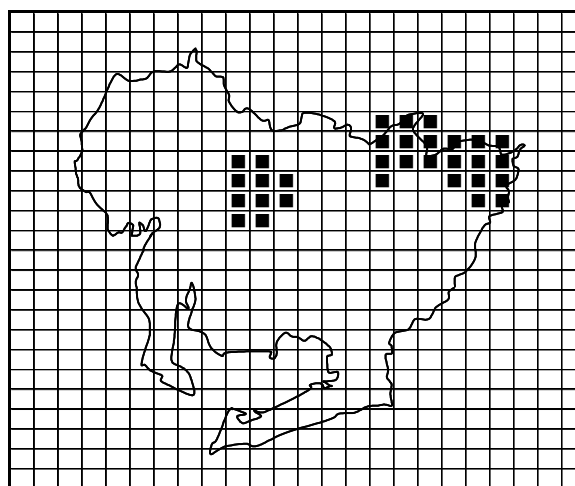
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州（南部を除く）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

腐植質の多い林内。自然林に限らず、造林地、二次林内などにも生育している。通常あまり群生しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地点数が少ない上、どの場所も個体数が極めて少なく、散発的である。豊田北西部では 2 株確認されたにすぎない。しかし、他地域でも高密度に生育することの少ない植物なので、偶産ではない。森林の伐採による消滅が危惧される。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

近縁種のナツノハナワラビ *O. virginiana* (L.) Small も、愛知県では多いものではない。

【関連文献】

保シダ p.30, 平シダ p.69, 学シダ I p.290.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 230-237. 東京大学出版会, 東京.